

令和 8 年度第 2 回大垣市障がい者の暮らしを支える協議会全体会
「日中サービス支援型共同生活援助事業所の開設について」の質疑・意見への回答

回 答 日：令和 8 年 8 月 3 日(月)

事業者名：株式会社ビジョナリー

質疑・意見	質疑・意見への回答
医療的ケアのある方の医療の受け入れ体制と、強度行動障がいの方の受け入れ体制について、具体的にどのようなことをされているのか。	医療については、24 時間の酸素経過観察や経管栄養が必要な方の受け入れは現状できていない。導尿カテーテルを装着している方については、訪問看護や看護師配置のある事業所でカバーしている。強度行動障がいの方については、自傷行為が激しい方等も実際に多く受け入れており、点数が 10 点以上つく方が半数近くいるグループホームもある。現状の建物で受け入れが難しい場合は、より頑丈な構造の障がい者専用住宅へ移動していただくケースもある。
今後、看護師を常駐させる考えはあるか。また、専門家を招いた研修などはされているか。	看護師の常駐については、会社としての事業方針にはまだ至っていない。短期入所で医療的ケアが必要な方を受け入れる際にその時だけ看護師に来てもらう対応はしている。研修については、社内研修に加え、強度行動障がいの基礎・応用研修を外部講師により実施しており、社内の「支援戦略室」が事業所からの相談対応をする体制を取っている。
お風呂は特殊浴槽か。また、座位が保てない寝たきりの方は利用できないという理解でよいのか。	機械浴は導入していない。簡易的なバー等がついている施設が多い。寝たきりの方への対応は難しい場合があり、他のグループホームでは寝たまま入浴できる通所先に協力してもらい、そちらで入浴していただいているケースが多い。

質疑・意見	質疑・意見への回答
これまで運営してきた日中サービス支援型グループホームで、地域との関係性をどのように作ってきたか（ボランティア受け入れ、地域交流等）。	社内イベントやグループホームごとのイベントにボランティアを受け入れている。日帰りキャンプ形式のイベントを1～2か月に1回開催し、多数のボランティアに支えられている。一宮市では福祉の高校と交流やコラボ企画を実施した実績もある。最近では地域の防災訓練への参加や、起震車を用いた自主的な防災イベントの開催なども行っている。ただし、自ら開催する防災イベントに地域住民を招く取組はまだ十分ではない。
県への届出は20名定員で募集は10名定員から開始とのことだが、10名から20名に増やす時期のスケジュールはあるか。また人材確保のスケジュール、医療的ケア対応の体制強化についてはどうか。	開所後すぐに満床になるとは想定しておらず、半年程度かけて徐々に埋まっていくスケジュール感を想定している。満床が見込める時期が分かった段階で人材募集・人事異動を並行して進める。医療的ケアについては、本日の意見を受けて社内で検討する。社内の訪問看護ステーションは一宮市・鈴鹿市・豊橋市の3か所にあるが、大垣市からは距離があるため、他の訪問看護事業所との連携やグループホームへの看護師常駐等の対応が必要になると考えている。訪問看護ステーションの新設は現在の事業計画にはないが、必要性を含め持ち帰り検討する。
市内グループホームの空き状況、及び新設事業所の入居見込みについて教えてほしい。	（事務局）市内グループホームは定員がほぼ埋まっている状況と把握しているが、空きがある事業所もある。 （事業者）新設事業所の入居見込みは現時点でゼロだが、美濃加茂市・岐南町・一宮市の20名定員グループホームは既に満床であり、他にも入居希望の声があるため、そういった方々への案内により十分ニーズに応えられると考えている。

質疑・意見	質疑・意見への回答
管理者やサービス管理責任者の定着について、質の高い支援提供のため長く勤めていただきたい（要望）。	—